



#リスペクト

令和8年 6月30日

江東区立有明中学校

校長 西川 諭

<https://ariake-chu.koto.ed.jp/>

学び続ける人 心豊かで、思いやりの有る人 明るく、健やかな人

No. 4

#リスペクトから考える「比べること」～競争を越えて、自分の成長を見つめるために～

図解版はHPで

●学校生活には「比べる」場面がある

学校生活には、どうしても「比べる」場面があります。テストの点数、順位、部活動の勝敗、発表の出来栄え、運動の得意・不得意。さらに、生徒たちにとっては、容姿や髪型、雰囲気、持ち物、友人関係なども、大きな比較の対象になることがあります。

「あの人が勉強ができる」「あの人が人気がある」「あの人がかわいい、かっこいい」。

大人から見ると小さなことに思えるようなことでも、生徒にとっては決して小さくありません。

鏡の前で髪型がなかなか決まらない。人からどう見られているかが気になる。友達の一言や周囲の視線に心が揺れる。それは、自分という存在を少しずつ意識し始める時期だからこそ起こる、自然で切実な心の動きです。

●「人と比べること」は全て悪いわけではない

人と比べることが、全て悪いわけではありません。友達の努力に刺激を受けて、「自分も頑張ろう」と思うことがあります。仲間の姿から学び、自分を高めていくこともあります。互いに切磋琢磨する関係は、人を成長させる大切な力にもなります。

しかし、「人に勝つこと」や「人より上であること」そのものが「目的」になってしまうと、心は次第に苦しくなります。たとえば、テストで80点を取ったとします。自分なりに努力し、前回よりもよい結果だったなら、本来は喜んでよいはずですが、ところが、友達が95点だったと知った瞬間に、その80点が急に色あせて見えることがあります。点数は変わっていません。変わったのは、自分の努力ではなく、比べる相手です。

●比較は、自分の見え方を変えてしまう

これは、勉強や運動だけの話ではありません。自分なりに整えた髪型も、誰かと比べた瞬間に不安になる。自分らしく過ごしていたはずなのに、誰かの姿を見た途端に、自信が揺らぐ。それまで何とも思っていなかった自分自身が、急に足りないもののように見えてしまう。比較とは、時にそのようにして自分の見え方を変えてしまいます。

反対に、人よりよい結果を出したときも、「次

も勝たなければならない」「今度負けたらどうしよう」と不安になることがあります。人との競争だけを拠り所にする、負ければ落ち込み、勝っても安心できません。それでは、せっかくの努力が、自分を支える力ではなく、自分を追い詰める力になってしまいます。

●大切なのは「昨日の自分」と比べること

人は誰でも、「今よりよくなりたい」という願いをもっています。できなかったことができるようになりたい。分からなかったことを分かるようになりたい。昨日より少し前へ進みたい。今の自分を、少しでも好きになりたい。この願いは、人が成長していくための自然で健やかな力です。

成長は、いつも点数や順位に表れるとは限りません。「前よりも早く準備ができるようになった」「苦手な教科でも少し粘れるようになった」

「言い返す前に一度考えられるようになった」「困っている人に声をかけられた」「人の目を気にしすぎて苦しくなったときに、少し深呼吸できた」こうした変化は順位には現れません。しかし、学校生活において、とても大切な成長です。

●「#リスペクト」の学校へ

私たちは、ともすると人生を「上か下か」で見えてしまいます。しかし、人の歩みは本来、「上と下」だけで測れるものではありません。少し先を歩いている人がいる。これから学ぼうとしている人がいる。ある分野では得意でも、別の分野では誰かに助けをもらうことがある。人は誰もが、そのように支え合いながら歩いています。

本校が大切にしている「#リスペクト」とは、相手を自分より上に置くことでも、自分を低く見ることでもありません。一人一人を、かけがえない存在として認め、それぞれが自分の歩幅で前に進もうとしていることを尊重することです。

比べる相手は、隣の人ではありません。昨日の自分です。そして、自分が身に付けた力は、人に勝つためではなく、誰かを支えるために使う。そのような考え方が広がるとき、学校は安心して挑戦できる場所になります。一人一人が昨日の自分より少し前へ進むこと。その積み重ねが、学校を温かくし、子どもたちの未来を確かなものにしていくのだと思います。

6

6月の振り返り

6月30日発行



2年A～C組・移動教室（6月11～13日）

仲間と深めた3日間

2年A～C組の生徒が2泊3日の移動教室を実施しました。大自然の中でのハイキングやグループ活動、仲間と寝食を共にした時間を通して、友情を深めるとともに、集団生活の大切さを学びました。しおりを確認して時間を守ろうと声を掛け合ったり、自分の係の仕事に責任をもって取り組んだりする姿から、一人一人の成長が感じられました。



生徒総会（6月18日）

自分たちの学校を自分たちでつくる

生徒会本部や各専門委員会の活動方針について説明と質疑応答を行いました。今年度も、生徒会本部では「#Respect Others みんなが楽しめる学校づくり」を目標に掲げ、専門委員会からも、よりよい学校生活に向けた具体的な活動方針が示されました。質問や要望に対して、委員長が自分たちの考えを丁寧に答える姿から、生徒一人一人が学校づくりの一員であることを感じる時間となりました。



いじめ防止講演会（6月25日）

言葉と行動を見つめ直す時間

弁護士の小川淳子先生をお招きしました。SNS上でのやり取りや写真・動画の共有など、身近な事例をもとに、相手を傷つける言葉や行動について考えました。また、悪口やからかいに同調しないこと、困っている人に声をかけることも、いじめを防ぐための大切な行動であると学びました。生徒たちは、自分の言葉やSNSでの関わり方振り返りながら、誰もが安心して過ごせる学校をつくることの大切さを考える時間となりました。

ケース3 “写真・動画の勝手な共有”

写真・動画を本人の許可なく共有することは、どんな問題がある？

- ①プライバシー権の侵害
プライバシー権とは、私生活上の事実や秘密を公開されない権利
- ②肖像権の侵害
肖像権とは、自己の容ぼう・姿態をみだりに公表されない権利
- ③差別的な言葉が添えられては、各児童にもなろう

授業の様子

音楽 | 学年

鑑賞 ヴィヴァルディ「春」

授業者：渡邊 浩美 主任教諭



【校長より】今回は、音楽科の授業にお邪魔しました。授業では、前時までの学習を振り返りながら、生徒が音楽を聴いて感じたことを丁寧に引き出していました。「ワクワクする感じ」「小鳥の声のよう」「水の流れのよう」など、生徒一人一人の感じ方が自然に共有され、音楽を味わう雰囲気が教室全体に広がっていました。

渡邊主任教諭の授業で印象的だったのは、一つの内容を、言葉だけで説明するのではなく、音、映像、スライド、ワークシートなどを組み合わせながら、生徒の理解につなげていたことです。例えば「リトルネット形式」について、教科書で確認し、実際に音楽を聴き、スライドで整理し、ワークシートに記述し、さらに映像で独奏と合奏の様子を確かめていきました。

同じ内容を、少しずつ形を変えながら確認することで、聞いて理解しやすい生徒、見て理解しやすい生徒、書いて整理しやすい生徒など、多様な学び方に対応した授業になっていました。

また、生徒の小さなつぶやきや発言を逃さず受け止め、全体に返していく場面も多く見られました。生徒が発した言葉を価値づけることで、「自分の感じたことを言ってよい」と思える温かな学習空間がつけられていました。

本校では、今後も生徒一人一人の感じ方や考えを大切にしながら、学びに参加しやすい授業づくりを進めてまいります。